

3 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

法人名

園名

育生会

こばとこども園

まとめ

全体平均

4.40

第2章第2節 乳児期の園児の保育	一人ひとりの発達に合った生活リズムの中で安心感を持って心地よく過ごすことが出来ている。次の発達の段階として、自分の周りの様々な物事に興味・関心が持てるように、愛情を込めた会話や表情を引き続き大切に行きたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	簡単な身の回りの始末を子ども自身で出来るようになり、基本的な生活習慣が身についてきた。日々の生活の中で保育教諭が一人ひとりの発達に合った環境を整え、子どもが自分を発揮できる場面をより多く作っていくことを続けて行っていきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	保護者アンケートから教育保育の意図が保護者に伝わっていないことがわかり、上手く伝える方法を模索したい。「自分からすすんでやろう」「ひととのつながりをたいせつにしよう」「あたりしことにきょうみをもとう」の保育目標をより充実させるために、遊びを通して様々な体験が出来るように園の環境を整え、適切な援助を心がけてはいるが、今のままでは不十分な項目もあるので教育保育要領を意識した計画の必要性も感じる。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	子どもの発達の違いに配慮し、子ども一人ひとりを大切にされた対応が出来ている。コドモンでの配信の仕方や保護者との連絡方法などは、工夫する必要がある。子どもの試行錯誤しながらも行う姿を受け止めて自信ややる気ができるように引き続き関わっていく。
第3章 健康及び安全	健康支援は看護師と連携して、適時適切な対応をしている。食育の推進については家庭や地域社会との連携が課題である。環境・衛生管理・安全管理については常に必要な情報を職員間で共有している。災害の備えは、よりリアリティのある訓練をしていきたい。
第4章 子育ての支援	ドキュメンテーションの配信等でコミュニケーションの充実を図れるように工夫したが、コロナ禍で保護者と職員、また保護者同士のコミュニケーションが減っている。面談や懇談会、行事等も工夫して継続していく必要があると感じる。
第5章 職員の資質向上	wabでの研修が増え、時間と費用を抑えての外部研修参加が可能となったので、保育の質の向上のためにも多くの研修参加の機会を作りたい。また、職員が主体的に実践する内部研修の充実が課題である。
総合	理念や要領に沿った教育及び保育を行うよう、すべての職員は意識して実行している。自己評価の内容に甘んじることなく、より質の高い内容を目指していきたい。ただ、その教育保育内容の意図が外部に伝わっておらず、コロナ禍の中でも見える化の必要性を感じる。子育ての支援や職員の資質向上については自園で足りない部分もあり、課題が多い。職員一人ひとりが来年度の自分の目標はもちろん、クラスの目標、園の目標を意識することが出来たので、来年度は自己評価を踏まえ、目標を精選し、良い点は継続し、改善点は取り組みを考えていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	5.00
「3歳未満児保育」	32	4.70
「3歳以上児保育」	53	3.81
「教育保育の配慮事項」	16	4.93
「健康・安全」	28	4.56
「子育ての支援」	16	4.56
「職員の資質向上」	9	4.00
計	169	4.40

データグラフ

